

政府による令和元年度大規模地震時医療活動訓練に参加しました（2019/9/7）

テーマ：首都直下地震、防災訓練、災害医療、災害派遣医療チーム（DMAT）
会場：東千葉メディカルセンター（千葉県東金市）

2019年9月7日に、首都直下地震を想定した政府による令和元年度大規模地震時医療活動訓練が開催され、稲葉洋平助教（災害医学研究部門 災害放射線医学分野）が東北大学病院 DMAT ロジスティクスチームの一員として参加しました。DMAT（Disaster Medical Assistance Team; 災害派遣医療チーム）は、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね 48 時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームで、阪神淡路大震災を契機に設立されました。1 チーム医師 1 名・看護師 2 名・業務調整員 1 名の計 4 名を基本単位とし、本部活動、広域医療搬送、病院支援、地域医療搬送、現場活動等を主な活動とします。

令和元年度大規模地震時医療活動訓練での訓練想定は首都直下地震で、想定被災地は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県とし、被災地内の訓練参加医療機関は約 200 医療機関、被災地外からの DMAT 支援は 333 チーム約 1600 名が参集しました。我々東北大学病院ロジスティクスチームのミッションは、東千葉メディカルセンター内に設置された市原・山武長生 DMAT 活動拠点本部での本部活動支援でした。DMAT 活動拠点本部での活動は、指揮命令系統の確立、被災医療機関の情報収集、到着 DMAT の活動指示、患者医療搬送調整など多岐にわたります。その中で稲葉助教は、業務調整員（ロジスティクス；通称ロジ）として広域災害救急医療情報システム EMIS（Emergency Medical Information System）を駆使し、管下被災医療機関の情報収集に努めました。さらに患者搬送手段の確保が円滑に進むよう消防や保健所など他機関と連携を密にしました。実際には自衛隊輸送機 CH47 を用いて広域医療搬送訓練を行いました。今後の実動に備えて、今回の訓練で得た知識や技能を維持できるように日々の訓練に精進したいと思います。



東北大学病院 DMAT



自衛隊機 CH47

文責：稲葉洋平（災害医学研究部門）